

4月5日富士山観望会

4月5日。丹沢星の会のメンバーと共に富士山二合目に観望に行ってきました。

富士山も毎年4月の下旬には五合目に至るスカイラインが開通するので、今年の秋までこの場所ともしばらくの間お別れになります。

今回は7名のメンバーが集まり、各々観望を楽しんでいました。

今日はツジさんの自作ドブソニアンのお披露目でもあり、本日でたくファーストライトとなりました。

20インチ鏡が見えています。斜鏡の位置をトップリングの外にくるように設計してあるため、45cm にはしては外観もコンパクトです。随所にいろいろな工夫がしてありそうなので、また次回明るい時間にじっくりと見せてもらおうかな。



Photo by うらしま

対象を導入する時はこのような格好になります。まさに獲物を狙うハンターのようなですね。



Photo by うらしま

フィリップさんの Obsession15 インチドブソニアン。

フィリップさんとご一緒するのは昨年の夏に太郎坊でお会いして以来になります。フィリップさんには冬の対象を幾つかご相伴に預かりましたが、NGC2392 エスキモー星雲がなかなか秀逸でした。



Photo by うらしま

ハセガワさんの FS128。

ハセガワさんの定番機種ですが、最近赤道儀がアトラクスに様変わりしています。自宅屋上を改造して設置されていた自作ドームを傷みの関係で最近撤去されたそうで、これからはドーム内に固定されていたアトラクスの出動機会が増えそうですね。



Photo by うらしま

クマが光軸調整をしています。

あれこれいじっているうちに周りが暗くなってしまったので苦戦しているところです。



Photo by うらしま

今日は先日逝去された飯能天文同好会の市川利光さんの名著「初めての星空ハイキング」「続・星空ハイキング」を持参しました。市川さんへの追悼の意をこめて、今夜は最初からこの二冊に掲載された対象を中心に観望する予定でした。

序盤は薄雲が多く冬の対象はほとんど見る事ができなかったので、春の対象からメジャーどころを中心に幾つか紹介します。

・M81 & M82

おおぐま座の先陣はいつもここからですね。

北斗七星の α UMa と γ UMa を結んで 2 倍に伸ばした辺りに見えるメジャーな対象ですが、この方法ではよほどの低倍率でないとなかなか視野に入ってくれません。市川本のチャートを知ってからは一発で導入できるようになりました。M81 は大きさは判るものの周辺部はかなり淡く、それに比べて M82 は中央付近に大きな暗黒帯の切れ込む様子が見事でした。

・M51

快晴になった夜半過ぎ、天頂付近に来た時には 2 本の大きな腕がはっきりと判り、下から伸びた 1 本がかすかに伴銀河に繋がっている様子が判りました。フェイスオン銀河の中では渦巻き構造の最も見易い対象でしょうね。北斗七星最後の星 η UMa から辿れば導入も簡単。

・M106

γ UMa を起点に星を辿って導入します。バルジを中心に太い腕がちょうど佐渡島のように南北に伸びている様子が面白い。これも大きさが実感できる対象です。

・NGC3718 & HCG56

いきなり難易度をトップギアに入れます。N3718 は前回の観望会でも紹介した対象ですが、今夜は HCG56 狙いで再チャレンジ。140 倍でしばらく見続けていると、本当にかすかですが**その位置に何かがあることは確認できます**。複数の方にも見てもらいましたが、ツジさん以外の方には確認できませんでした。45cm でもほぼ同様の見え方でしたので、今夜のコンディションではこの辺が限界なのでしょう。後ほど画像を確認しましたが、N3718 との位置関係や光芒の並びから**間違いなく見えていたと確信しました**。一応**初モノ**ということになりますね。

・M3

春を代表する大型の球状星団。秋から冬の間は大型の球状星団が見られないので、毎年最初にこの M3 を見る度に、春～夏の球状星団シーズンの始まりを感じます。

以前はアルクトゥルスとコルカロリを結んだ真ん中ややアルクトゥルス寄り、と、かなり大雑把な導入方法でした。富士山だとファインダーでも余裕で見えるのでこの方法でも楽に導入できますが、市街地だとこれがなかなか見つかりません。市川チャートを教えてあげたハセガワさんが、「一発で入った」と喜んでくれました。

続いて銀河の宝庫でもあるかみのけ座から。

かみのけ座の対象は目印となる星が少ないため、導入に苦労させられることが多いですが、市川チャートを知って今までの苦労が嘘のようで、今では確実に一発で入るようになりました。

・NGC4565

いわずと知れたエッジオン銀河の代名詞とも呼べる存在。かみのけ座にもメシエ天体がたくさんあるのに、なぜこの N4565 がメシエカタログ入りしなかったのか不思議です。ツジさんの 45cm でも見せてもらいましたがエッジオンの切れ味が素晴らしく、今夜見た中では 37cm との差が如実な対象でした。

・M64 黒眼銀河

この対象、 α CVn コル・カロリとほぼ同一経度上にあるため赤道儀ならば簡単に導入できますが、ドブだと結構導入に苦労していた対象です。

37cm だと黒眼に相当するバルジ上部の暗黒帯がはっきりと判り、なかなか印象的な眺めです。

・M53 & NGC5053

M53 はメシエ天体が多く存在するかみのけ座の中でも唯一の M ナンバーを持つ中型の球状星団です。 α Com のすぐ隣なので導入自体も簡単ですが、問題はその直ぐ南東にある N5053 の方で、球状星団の中には 37cm でも見えない対象があることを思い知らされた対象です。

低倍率なら M53 と同一視野に入るほど至近距離なのに、ちょっとコンディションが悪いと全く見えない。本当にこれが球状星団なのかと言いたくなるほど、淡くて難易度の高い対象です。

※この画像を見ていただければ納得でしょう。

・ヘルクレス座の球状星団三態

ヘルクレス座の球状星団と言えば M13 の存在があまりにも有名ですが、もう一つの大型球状星団 M92 の存在は忘れられがちです。存在することは知っていても、実物は見たことがないという方が意外と居るのには驚きました。前述の M53 より遥かに見映えの良い対象なので、忘れずに見てあげましょう。

M92 の 7° ほど北西には小型の球状星団 NGC6229 もあり、37cm で見ると小さいながらもしっかりと分離して球状星団であることがはっきり判ります。

この付近は球状星団の三者三様の眺めが楽しめる領域なのです。

・M5

M13 が貴婦人のような滑らかさなら、M5 は差し詰め玉様の風格と言ったところでしょうか。M13 を見た後は必ず M5 も見るようにしています。M13 のスターチェーンも特徴的ですが、この M5 のスターチェーンは全方位に渡って広がっており、なかなか見応えがあります。

夜も更けてそろそろ撤収の時間が近づいて来ました。

へびつかい座が南中近くまで昇ってきたので、球状星団マラソンの後、本日の締めくりに珍しい天体を探してみました。

・バーナード星

こんな対象も続編の方で紹介されています。

パッと見は 9.5 等級のただの恒星ですが、全天で最も固有運動が大きく 1 年で見かけ視度約 10.3" も移動する事で注目されている星です。太陽までの距離 5.97 光年で α ケンタウリに次いで 2 番目に近いため観測もしやすいのでしょうか。

ファインディングチャートですが、へびつかい座の向かって左の肩口にあるポニアトフスキーのおうし座と呼ばれる特徴的な星列から辿って導入します。

続編が発売された 4 年前から毎年見続けていますが、08 年現在ちょうど近くの恒星と二重星のように見えるため、角距離の変化がはっきりと判るので毎年楽しめますよ。

以上、印象に残った対象を中心に紹介してみました。

今夜は私的に市川さんの追悼観望会を楽しんだ一夜でした。

氏が残された二冊のガイドブックは、初心者の方からベテランの方まで幅広く楽しめる対象が網羅されていますが、難易度の高い対象も本当に丁寧に説明してあり、改めてこの本の凄さを思い知らされました。

絶版になる前に星仲間にも教えてあげようと思います。